

審査委員会奨励賞

アズビル藤沢テクノセンター 第103建物



単一の「Goal」ではなく「Goals」の達成を目指した建築

本建物はazbilグループの中核研究開発拠点における実験作業環境を担うと共に、アズビルの最新技術を試し、見て、体験できる空間でもある。この建物そのものが**生きた実験装置**であり、同時に**生きたショールーム**となるアズビルの未来を集約した建物である。同じように本建物におけるSDGs目標達成への取組は各々が独立したものでなく**1つの取組が複数の目標達成に貢献する**、あるいは1つの目標達成が次の目標達成につながる複合的な取組であり、まさに「Goal」ではなく「Goals」達成に貢献し得るものである。

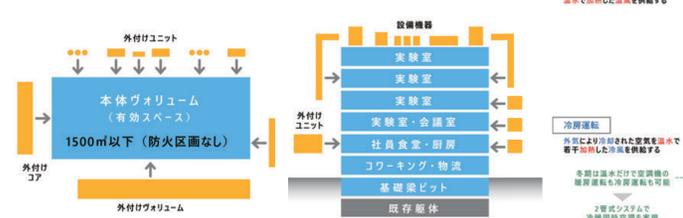
12 つくる責任 つかう責任
 Goal 12 つくる責任 つかう責任
 ミニマルで未完成的な成長する建築

11 住み続けられるまちづくりを
 Goal 11 住み続けられるまちづくりを
 ライフサイクルを通じた環境貢献

建設という甚大な環境負荷を伴う行為には強く「つくる責任とつかう責任」が求められると考える。最小限の建築、最小限の設備、最小限のエネルギーで**最大限の活用**の場を提供することに大きな意義がある。また長期に渡り存在する建築はその**ライフサイクルを通じて環境負荷を抑制**する必要がある。結果としてそれが「住み続けられるまちづくり」につながる。本建物では「建設行為のミニマル化」「建築設備のミニマル化」「未完成デザイン」「材料への取組」を通してGoals達成に貢献する。

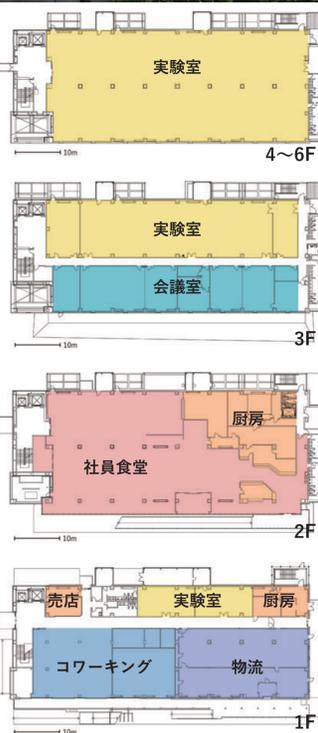
■ 建築行為のミニマル化

将来的な実験の変化に対応しやすい**フレキシブルな実験室**として、防火区画のない整形ヴォリュームを確保するため、**コア（縦導線、トイレ、設備、シャフトなど）を全て外付け**とした。必要な機能を必要な場所に隣接して配置することで、無駄な空間を一切有さないミニマルな建築となる。



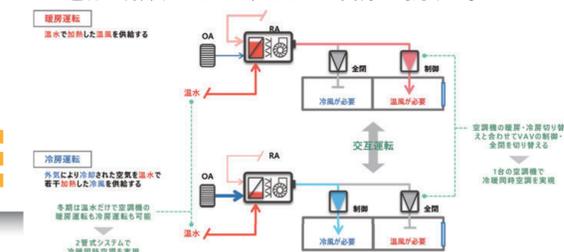
■ 未完成デザイン

竣工は建物の完成ではなく、成長過程の一端である、と捉え実験機器の増設・改修や経年劣化が生じても**違和感（つぎはぎ感）が生じないデザイン**とした。



■ 建築設備のミニマル化

冬期や中間期は**冷涼な外気**による冷房を行い、ピーク時以外は**間欠空調**を許容することで冷水2管式で冷暖フリー空調を実現している。冷暖同時要求時には**1台の空調機が冷風・温風を交互に供給**し、VAVを適切に制御することで、あらゆる負荷に対応する。



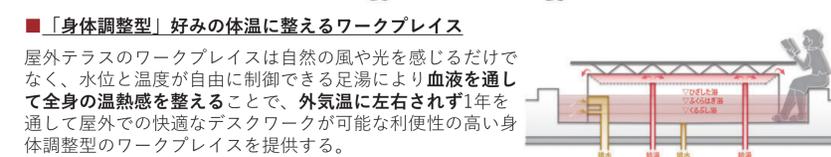
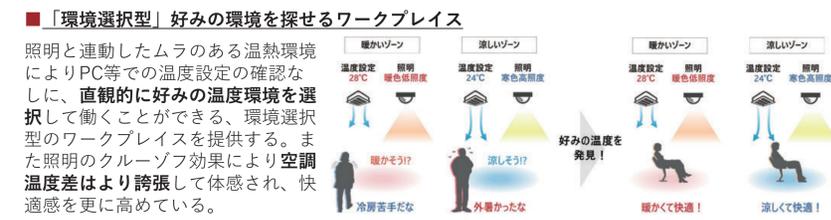
■ 古くて新しい材料への取組

最先端技術に頼るだけでなく、材料そのものを見直すという**懐古主義的なローテクノロジー**により、資材や労務を削減し建設時のCO2排出を抑制した。

8 働きがいも 経済成長も
 Goal 8 働きがいも 経済成長も
 様々な発想の「快適」な環境

5 働きがいも 経済成長も
 Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう
 みんなに「平等」なワークスペース

一つの建物には多種多様な人が働くが、その全ての人に対して**共通の「快適」の答えはない**。ならば**より多くの「快適」を提供**することが重要と考える。自分の快適を探す、自分の快適に寄り添う、自分自身が快適に向かう、快適へ様々なアプローチをしたワークスペースを提供している。より多くの異なる「快適」を生み出すことが、結果として**みんなに「平等」な空間**となると考える。本建物では「環境選択型ワークスペース」「環境変化型ワークスペース」「身体調整型ワークスペース」を通してGoals達成に貢献する。



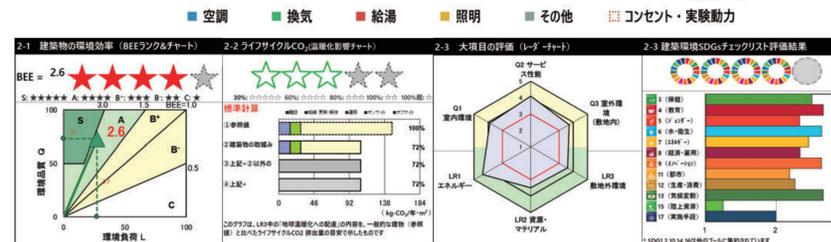
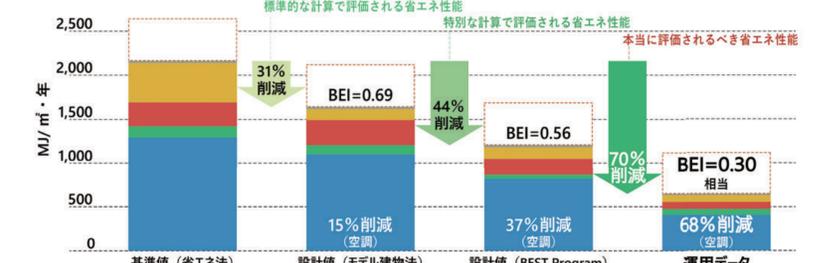
7 気候変動に具体的な対策を
 Goal 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
 制御技術が叶える省エネな建築

13 気候変動に具体的な対策を
 Goal 13 気候変動に具体的な対策を
 机上ではない実際の省エネで環境貢献

気候変動への対策としてZEBを目指すことは建築業界における重要な目標である。それは認証で求められる「**数値計算上のZEB**」ではなく「**実運用上のZEB**」である。認証のための数値計算に反映できる手法を優先するのではなく、数値計算に反映できずとも実効性が高く、費用対効果の高い手法を選択していくことが技術者倫理に基づくべき姿だと考える。本建物は「**本当のZEB指向型建築**」を目指すことによりGoals達成に貢献する。

■ 計算値でなく実効性を求めた省エネ建築

本建物は「ZEB認証」のための計算上のBEI値には拘らず、実運用での省エネルギーを実現することに拘った。実際に確認申請時のモデル建物法のBEI値は0.69と高くZEB Readyにははるかに届かない結果であった。それに対し実際の運用データでのBEI値は0.30と**70%の省エネ**を達成した。



建築主	アズビル株式会社
設計者	株式会社日建設計
施工者	大成建設株式会社
所在地	神奈川県藤沢市
主要用途	実験施設・食堂
敷地面積	29,300.56 m ²
建築面積	2,319.58 m ²
延べ面積	10,682.39 m ²
階数	地上6階、塔屋1階
構造	鉄骨造
竣工日	2022年5月